

(様式)

パブリックコメント実施結果報告書

令和2年3月25日

担当課	医療政策課
担当者	福田
連絡先	0857-26-7182

パブリックコメントのテーマ：「鳥取県医師確保計画」及び「鳥取県外来医療計画」の策定について

1 手段別意見応募件数（意見件数を記入し、応募者数は（ ）書きをしてください。）

郵便	ファックス	電子メール	県民参画協働課・ 総合事務所等 (意見募集箱)	電子 アンケート	説明会 等	その他	計
()	3 (2)	4 (1)	11 (2)	()	()	()	18 (5)

2 応募意見の政策案等への反映状況

対応状況	件数	主な意見
反映した (一部反映を含む)	3件	<ul style="list-style-type: none">若手医師の県内定着にはしっかりとした研修システムが必要。拠点病院においても東中部医療圏と西部医療圏では医療の質に差があり、東中部医療圏の改善が必要。中山間地等のへき地医療に取り組み、地域で受診できる様にして欲しい。
既に盛り込み済み	14件	<ul style="list-style-type: none">若手医師の県内定着には無理のない就労環境と支援が必要。女性医師に対する復職支援、託児所制度等、働きやすい環境整備について対象を助産師に広げてはどうか。医師も高齢化しており、臨床研修医を派遣して貰い、一人前の医師への育成が必要。大都市に行く医療従事者が多く、県内に目を向けて貰う取り組み(病院見学、情報発信等)が必要。自治医科大学に入学して貰い、医療の基本、専門医療を学び、県内で診療して貰いたい。出産には不安があるため、同じ女性医師のアドバイスが必要である。また、助産師・看護師の確保も必要。安心して医療が受けられる様に医師偏在、医師不足を解消して貰いたい。看護師の復職を促して貰いたい。高校生の職場見学等、医療従事者を志す若者を増やすための取組が大切。各診療科で適正な医師数を確保して貰いたい。整形外科、耳鼻科、眼科、精神科等の専門医が少なく、特に開業医が少ない。若手医師を含め、中山間地域にも開業医として赴任するなど、担い手不足対策が必要である。診療所(医師)の確保だけでなく、訪問診療や往診に対応した医師の確保が必要と考える。鳥取県の中山間地域、へき地を考えると、民間での採算性のある診療所の維持は困難ではないか、公的支援(物・人・金)による外来医療確保まで踏み込まないといけないのではないかと。医師確保計画と連動させて、そもそも数の確保だけでなく、在宅(訪問)医療の確保、その人材の養成も含めたカリキュラム(内容)で魅力を出していき、医療確保に努める方策が必要ではないかと。鳥取県の医療ビジョン(全体)を真剣に考える必要がある。
今後の検討課題		
対応できない	1件	<ul style="list-style-type: none">多死のピークは2040~2045年と思われるので、それまでは高齢者の医療需要は増えていく。高齢者の外来医療の確保で考えると2次医療圏では広すぎると考える。市町よりも狭い「地域」単位で考えないといけないのではないかと。
その他上記に分類 できないもの		
計	18件	

3 公表方法として該当するものに○を付してください。

とりネットでの公表 (担当課による)	報道機関への提供	県議会への報告	広報紙等への掲載	関係団体等への報告	その他
		○			○